

## 7 研修生のページ

### 育成調教技術者養成研修の紹介

#### 研修目的

財団法人軽種馬育成調教センターでは、競馬の安定的発展のための軽種馬育成基盤の強化と軽種馬の資質向上に向けて、将来軽種馬生産地において技術的中核となるべき者に対して馬に関する体系的な技術および知識を習得させことを目的として1年間研修を行っています。前半の6カ月間では育成調教技術者として就労するための基礎的な知識および技術の習得を目標とし、後半の6カ月間では前半で学んだ知識および技術をさらに深めるとともに、若馬の馴致並びに初期調教を含め、より実践的な技術の習得をめざしています。

#### 研修内容とその後

軽種馬の生産・育成に関する体系的な実用技術および知識の習得を目的としたカリキュラムとなっています。入講時には研修生の約8割を乗馬未経験者が占めていますので、研修初期は各個人のレベルに合わせたカリキュラムから開始し、段階を踏んで高度な技術習得を目指しています。JRA日高育成牧場の協力を得て、1・2歳馬の馴致や育成調教の実践的な研修も行っています。

なお、研修修了時において、成績優秀者は社団法人競走馬育成協会が実施している「生産育成技術者海外派遣研修（アイルランド研修）」に推薦します。例年、この研修に5名前後合格し、参加しています。修了生の民間育成牧場等への就職率は、毎回100%となっています。

#### 研修施設紹介

全寮制のもとで充実した研修生活を送っていただくため、「研修センター あかしあ寮」には一人用居室が用意されており、快適な日常生活を送ることができます。寮内には教室、

トレーニング室およびシミュレーター室が備えられており、シミュレーターによる騎乗訓練ができます。きゅう舎は3棟（60頭収容可能）あり、ここには研修生の騎乗用馬が繋養されており、その一部に馬脚洗場、治療用枠場、馬体重計が備え付けられています。研修専用を使用する800mトラック、角馬場、覆馬場および円形馬場が用意されています。その他、馬がリラックスできるように放牧地やサンシャインパドックがあります。



シミュレーターを使用しての騎乗練習



教官が併走する騎乗訓練



発馬機の通過訓練



初めて人がまたがる騎乗馴致



ドライビングの練習(覆馬場)



グラス坂路での併走騎乗

### 研修の日課

時刻	内容
5:30~	きゅう舎作業と朝飼付け
7:00~	朝食、宿舎内の清掃
8:00~	騎乗訓練(2鞍) 昼前に飼付け
12:00~13:00	昼食と休憩の時間
13:30~14:45	学科あるいは実技の時間
15:00~17:00	きゅう舎作業夕飼付け
17:00~	夕食と休憩、自由時間
19:00~	夜飼付け(当番制)
22:00	消灯



1列縦隊の騎乗訓練



獣医師による学科授業

\*原則として日曜日は休講です。  
但し、当番制で馬の管理をします。



皆揃って楽しい夕食

### 年間の実技スケジュール

- 4月 入講式、常歩、速歩、駆歩  
軽速歩にてクロスバー通過
- 5月 1列縦隊、2騎併走、障害飛越  
(調教場施設での騎乗開始)
- 6月 1列縦隊、2騎併走、障害飛越
- 7月 1列縦隊、2騎併走、障害飛越
- 8月 1列縦隊、2~3騎併走  
ロンジング・ドライビングの実習  
民間育成牧場実習
- 9月 1列縦隊、2~3騎併走  
ゲート練習、騎乗馴致実習、中間テスト  
札幌競馬見学
- 10月 1列縦隊、2~3騎併走  
騎乗馴致実習
- 11月 1列縦隊、2~3騎併走、騎乗馴致実習
- 12月 併走騎乗、就職活動開始
- 1月 併走騎乗、育成馬騎乗実習
- 2月 併走騎乗、育成馬騎乗実習、スキー授業
- 3月 併走騎乗、育成馬騎乗実習、総合テスト
- 4月 併走騎乗、育成馬騎乗実習、  
J R A 日高育成牧場 育成馬展示会参加  
修了式

### 課外研修など

日常的に馬と触れ合う機会は非常に多いのですが、季節がよくなるとアポイ岳の登山、襟裳岬の観光、町民乗馬大会や夏には研修生と教官が一体となって「浦河競馬祭」への参加、ばんえい競馬や札幌競馬開催見学、年末には恒例の餅つき会、冬にはスキー実習、民間育成牧場実習およびテーブルマナー講習会など様々な内容の研修を受け、実践的な技術の習得のみならず社会人として広く活躍できることを目指しています。



チームワークが大切



J R A 育成馬展示会(1,600mトラック馬場)



救命講習を受講



目標は一つ。「浦河競馬祭」参加



種馬場見学

### 指導スタッフ

馬の世話の仕方の初歩から馴致、調教に至るまで騎乗技術など主に実技面の教育を行う5名の騎乗教官がおり、一般馬学、馬の衛生管理、栄養管理、運動生理、草地管理等の実技・学科は内外の獣医師や専門家にも依頼しています。毎日の寮生活では寮監が常駐して指導に当たっています。



北海道遺産「ばんえい競馬」を見学



指導スタッフ